

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名称

都立清瀬高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成

副校長、保健総務部主任（＝事務局長） 計2名

(3) 内部委員の構成

校長、副校長、経営企画室長、教務部主任、生活指導部主任、進路指導部主任、
保健総務部主任 計7名

(4) 協議委員の構成

学識経験者（大学教授）1名、中学校・特別支援学校管理職3名、学習教室経営者1名、地域の
有識者・地域の関係者3名、同窓会の代表1名、校長が選任する保護者代表1名
計10名

2 令和2年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回 令和2年7月16日（木） 書面開催

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画及び本校の現状と課題の説明、
昨年度の学校運営連絡協議会の課題

第2回 令和2年10月30日（金）午後3時40分から 内部委員7名、協議委員7名
コロナ禍における教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換

第3回 令和3年2月16日（火） 書面開催

コロナ禍における教育活動の報告、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、次年度
に向けた方向性の確認

(2) 評価委員会の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和2年7月16日（木） 実施せず

第2回 令和2年10月30日（金）午後3時20分から 内部委員2名、評価委員2名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察、今年度における学校評価
アンケートの実施に向けた検討、今年度の学校評価アンケートの観点・項目・内容・実施時期
の検討

第3回 令和3年2月16日（火） 実施せず

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点

- ① 生徒・保護者・教職員に対し、本校の教育活動全般について同じ評価アンケートを実施して比較する。
- ② 地域住民に対しては、学校への理解の問いかけを中心に行う。

(2) アンケートの調査時期・対象・回収数

調査時期	令和2年12月～令和3年1月		
対象	生徒	818人	回収 764人 (93.3%)
	保護者	818人	回収 543人 (66.3%)
	本校教職員	50人	回収 50人 (100%)
	地域住民	160人	回収 98人 (61.2%)

(3) 主な評価項目

学校生活、学習指導、生活指導、進路指導、学校の特色、施設・設備、家庭と学校の連携、情報発信、読書活動、体罰・いじめ対策・ライフワークバランスの推進

(4) 評価結果の概要及び分析

【全体的な傾向】

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、人と人の交流活動が制限される中、学校行事が中止になり、家庭内で過ごさざるを得ない状況となったため、昨年までと大きく状況が異なる結果が現れた。学習活動や進路指導、家庭でのコミュニケーションを肯定的にとらえる人が増加する一方、行事に対する満足度が大きく減少した。

【生徒の評価】

- ① 学校生活充実度は87.4%から82.9%と、微減。1、2年生の充実度の変化はないが3年生が73.8%と減少した。
- ② 授業の教材や教え方の工夫は、71.1%から73.4%と、昨年に引き続き上昇。
- ③ 土曜授業は50.7%から53.27%と微増、一方、否定的に回答している層も39.4%いる。
- ④ 部活動の活発さについては、87.0%から86.1%とほぼ横ばい。
- ⑤ 学校行事の満足度は86.4%から52.5%へと大幅に減少。
- ⑦ 生徒会委員会活動は74.0%から62.7%へと減少。
- ⑧ 進路指導は、全体では75.8%から81.1%と増加。1年生が79.6%から93.0%と増加、3年生が68.0%から73.0%へと増加。
- ⑨ 施設・設備の充実は、30.6%から38.0%へと微増。
- ⑩ 「清瀬高校に入学して良かった」は80.1%から80.5%へ微増。
- ⑪ 読書活動への取り組みは、13.5%から18.2%へと微増したが、否定的な回答も51.9%とアンケートの回答の中で、否定的に答えている層が多い。
- ⑫ 体罰・暴言への取組は、全体では51.7%から69.2%へと増加。
- ⑬ いじめ対策は、全体では49.1%から66.1%へと増加。
- ⑭ 力をいれるべき点では、学習活動41.5%、学校行事47.2%、部活動22.5%、進路指導18.7%。(前年度は、学習活動29.0%、進路指導15.6%、部活動17.7%、学校行事24.8%)

【保護者の評価】

- ① 学校生活充実度は 75.4%から 83.4%と増加。
- ② 授業の教材や教え方の工夫は、前年度同様 32.9%から 54.3%に増加。「わからない」と回答は 30%から 22.0%に減少。
- ③ 土曜授業は 59.7%から 75.6%と増加。
- ④ 部活動の活発さについては、81.7%から 84.2%と増加。
- ⑤ 学校行事の満足度は 79.3%から 49.4%へと大幅に減少。
- ⑦ 生徒会委員会活動は 45.4%から 53.4%へと微増。
- ⑧ 進路指導は、全体では 48.7%から 65.2%へと増加。
- ⑨ 施設・設備の充実は、24.3%から 39.6%へと増加。
- ⑩ 「清瀬高校に入学して良かった」は 80.8%から 90.7%へと増加。90%台を超えた。
- ⑪ 読書活動への取り組みは、13.9%から 36.6%と増加したが、否定的な回答も 35.6%でわからないと答えている 23.1%よりも否定的に答えている層が多い。
- ⑫ 体罰・暴言への取組は、全体では 31.5%から 55.3%へと増加。
- ⑬ いじめ対策は、全体では 26.7%から 51.5%へと増加。
- ⑭ 力をいれるべき点では、学習活動 54.6%、学校行事 34.0%、部活動 15.6%、進路指導 32.4%、地域 21.9%)
(前年度は、学習活動 36.4%、進路指導 34.8%、部活動 12.1%、学校行事 10.0%、地域 3.6%)

【教職員の声】

- ① 土曜授業、施設設備に関して、否定的に回答している声が多い。
- ② 読書活動への取り組みを否定的に回答している声が多い。
- ③ 一部の先生への部活指導や教科指導が集中している。業務改善によるバランスが必要。

【地域の声】

- ① 地域の防災活動やボランティア活動に貢献してもらい感謝している。【同様の声 9 件】
- ② 地域貢献で学校外で関われることは積極的に関わってほしい。 【同様の声 23 件】
- ③ 地域との連携をとるための具体策を考えてほしい 【同様の声 4 件】
- ④ 登下校時の自転車通学や歩行者への気配りをお願いしたい。 【同様の声 8 件】
- ⑤ 生徒の登下校時のマナーは良いと感じている 【同様の声 2 件】
- ⑥ 部活動や学校生活が盛んで、嬉しく感じる。 【同様の声 10 件】
- ⑦ 文化祭やイベントなどの告知を広くわかりやすく伝えてほしい。 【同様の声 3 件】

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ① アンケートの結果や協議会では、本校生徒の昨年度までの地域貢献が評価され、好意的に見てくれていることがわかった。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ① 全体的には生徒の主観的満足度は改善傾向を示した。

- ② 今年度は学校行事等が中止となり、さらに地域との交流も行わなかったもので、本校に対する評価で「わからない」や「不明」という回答が多くなった。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ①生徒の進路第一志望実現を目指し、文武の両立ができる生徒の育成を目指す。
- ②進路実現に向けた方針や取組を、保護者会や面談を通して更なる理解促進を図る。
- ③都立高離れ、清瀬高校離れを防ぐため、広く PR していく方策を練る。

(2) 学習指導

- ①教員一人一人のアクティブラーニング型授業への対応力を向上させ、教科会と相互授業観察を積極的に実施させる。
- ②チューター制度の充実（定期考査前や土曜講習への活用）し、学習意欲向上を図る。
- ③自学自習に向けた環境整備を図り、部活動とのバランスを図る指導を一層推進する。

(3) 進路指導

- ①各学年の三者面談を必要に応じて実施し、保護者と連携した進路指導を積極的に行う。
- ②外部模試、進路講演会等のキャリアガイダンスを計画的に行う。そして、部活顧問と担任が連携を図り、生徒が学習と部活動の両立を一層図れるよう指導していく。
- ③模擬試験の定点観測を継続し、情報の共有を図り、学校全体で生徒の進路実現を推進する。

(4) 広報活動

- ①HP の更新回数を上げ、本校の教育活動全般を家庭・地域へ発信する。
- ②学校見学会・学校説明会等で、生徒を全面に出した取組みを継続していく。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員 10名

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
2	3	1			1	3

※今年度は書面開催により協議委員へのアンケートを実施。

返信がなかった方については無回答とした。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

- (1) より一層、広報活動の工夫を図り、本校の教育活動を積極的にアピールする。
- (2) オンライン（Classi、Teams 等）の仕組みを積極的に活用し、生徒のみではなく保護者との連携に向けた方策を模索する。